

おおいた 法の海

第 45 号

発行所

浄土真宗本願寺派

大分教区基幹運動推進委員会

〒874-0920 別府市北浜3丁目6-36

本願寺別府別院内

TEL 0977-22-0146

FAX 0977-24-7831



教区子どもの集い (四日市別院)

讃歌 『しんらんさま』

親鸞聖人750回大遠忌法要を迎えるにあたり、700回忌(S36)の頃から、歌い継がれている讃歌『しんらんさま』…45年目を迎えています。

「…南無阿弥陀仏となえれば しんらんさまは」と、あなたに向けて呼びかけの歌です。

あなたとなりには、誰がいますか？

一日の始まり・いのちの目覚めに感謝し、日々の生活の中で、おかげさまと手を合わせる。

『南無阿弥陀仏となえれば 親鸞さまは…やかに 私となりにいらっしゃる』南無阿弥陀仏は、「いつもいっしょだよ」の声の仏さまです。

あなたは、まっ暗な人生を歩いていませんか？

人生いろいろ…嵐に消えかくれる苦難の人生です。まっ暗な中を不安げに歩く道より、光に照らされた道を安心して歩かせていただきます。

『親鸞さまは…ともしびを 私のゆくてにかざされる』南無阿弥陀仏は、光の仏さまです。

いっしょに歩いてくれる人は、いますか？

人生は旅です。帰る家があるから、旅は楽しいように、お浄土は、いのちの故郷であり、親元です。

『親鸞さまはよりそって 私の手を取り歩まれる』

南無阿弥陀仏は、共に歩んで下さる仏さまです。

合掌

(前少年連盟委員長・光榮寺 摂受定信)

某月某日、某寺にて。

★ ★

B男 御院家さん、先日は孫の結婚式を仏前でしていただきありがとうございます。厳かな式で、親戚の者も喜んでおりました。

住職 お天気も良くて、良い式になりましたね。

悲しみのお経・

喜びのお経

B男 お経というのは悲しい時に読むものとはばかり思っていました。結婚式の時に読むような喜びのお経もあるんですね。

住職 ちょっと待ってください。お経には悲しみ用とか喜び用といった区別はないんです。というか、そういう分類をするならほとんど全てのお経が喜びのお経ということになります。

B男 えーっ、そうなんですか。
住職 はい。たとえば、ご法事するときなどに拝読する浄土三部経(『仏説無量寿経』・『仏説観無量寿経』・『仏説阿弥陀経』)

の終わりは、いずれも、お釈迦様の説法を聞いた者たちが喜んでところで終わっています。

B男 へえー、それは知りませんでした。

住職 浄土三部経を初めとして、多くのお経には「阿弥陀如来のあらゆる衆生を救うはたらきを

となつて再び会う世界(お浄土)を用意して下さった阿弥陀如来のお徳を讃え、そのご恩に感謝するためなんです。

B男 お経は、亡くなった人にも良いところに生まれてもらうために読むものと思っていました。が、どうも違うようですね。

ペンペン草の境内地

⑱お経は誰のため



サルナート 法輪法転初 (鹿野苑)

聞いてお念仏申し、お浄土に生まれて仏さまになつてくれよ」といってお釈迦さまの説法が説かれていくのです。そのお経を読むことは、いまお経を読んでい

る私が、お念仏のみ教えを聞いて喜ぶことであり、皆が仏さま

住職 年回法要や祥月命日など、亡き人をご縁にお勤めすることが多いので、故人のためと思

念仏のみ教えを味わってみると、故人は阿弥陀様のはたらきです。すでにお浄土に生まれ仏様になつ

ていらつしゃるわけですから、故人のために善を振り向ける(追善) 必要もないです。振り向ける(回向) ほどに善を積み続けることができる私でもありません。

B男 そういわれてみれば、その通りですね。人が仏様になるほどの善を振り向けられる私であれば、私が仏様になつていないとおかしいですね。

回向できるのは仏様だけ

住職 人が仏になるほどの善を振り向けることができるのは仏様だけなんです。仏様になつていない人が善を振り向けようとするのは、運転免許を持つていない人が車の運転を教えるようなものです。

B男 それは、非常に危ないことですね(笑)。

住職 お経を読む事によって、お経を読んでいる、あるいは聞いているこの私が、仏法を私の問題として聞かせていただく、阿弥陀様の救いはこの私のためのものであると味わわせていただくことが大事なことです。

掲示 伝道

簡易法語掲示板

【白佐組 福勝寺】



本堂前の掲示板

法語掲示を始められた三十年前は、紙に書いたり黒板にチョークで書いた簡易な物で、雨や風のために悩まされ一時中断されました。

五年前仏様が結成され、会員へのお知らせも兼ね法語の掲示板が、サッシ枠にガラス張りの頑丈な物を、会員の手作りで十二の地区に設置してあるようです。

法語は会員の要望や法語集から選ばれ、三つの法語を四枚ずつ坊守さんが、書かれ毎月十三日の集まりで仏社会員が貼りかえられるそうです。

日常の中の仏教(2)

東 光 爾 英



【食前食後のことばと、縁起】

ある日、食堂で子供が母親に「幼稚園ではね、ごはんの前にいただきます、つち言うんで、でもなしやろか？」と尋ねていました。母親は「そんなことどいげでもいいつちや、早よ食へんな」と食事を始めたのです。母



子どもの食前風景

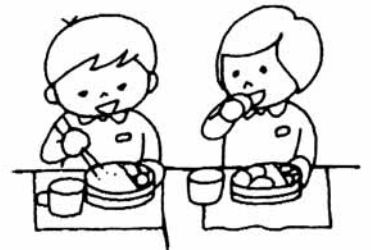
親がその意味を知っていてか、知らずに答えなかったのか私にはわかりませんが、なにか寂しい気持ちがありました。

しかし、どうして食前食後の言葉「いただきます」「ごちそうさま」を言うのか、考えてみたことがあるでしょうか。

この言葉は、実は仏教の教えの根本からきている言葉なのです。

私たちの命は、言うまでもなく自分だけで存在せず、あらゆる命があることよって成り立っています。動物のように他の動物の命を奪うというだけでなく、その動物の死骸がやがて土になり、植物の命をささえてゆくのです。人間もあらゆる数限りない命を奪わねば生きてゆけません。

また私たちの命があるということは、物理的に肉体が存在するというだけではありませぬ。自分は、父があり母があることよって、たとえ両親が亡くなっても、その子として



子どもの弁当風景

の人生を送っています。やがて結婚すれば、妻として夫としての人生が、子供ができると親としての人生が誕生することになります。また自分の子供は、自分の子としての人生を送っているのです。また学校にあつては、先生によつて生徒としての人生があるのです。これらの場合、世話になつているとかなつていないとかは関係ないのです。

私たちは、多くの命の存在によつて、初めて自分の存在を知るわけで、他によつて生かされている自分を知るのです。また逆に、多くの命を生かしている自分の命であるということがわかります。

こうしたもののあり方、存在のしかたを仏教では「縁起」といいます。釈尊のお悟りは、この縁起に目覚められたことになりました。この「縁起」がわか

ればお互いを傷つけることも、不平不満の心をおこし悩むこともないのです。

ところが私たちは、いつも自分中心の考えから、自分の命は自分が所有する自分だけのもの、としか考えない傲慢な態度が出てきて、人に迷惑をかけねば人は好き勝手に生きてゆくとか命を生かすも殺すも自分の自由という、あるいは損か得かではかる人生という思い上がった考えが起きてきます。

ですから釈尊は、食前には「多くの命をいただきます」食後には「多くの命をごちそうさまでした」と言い、命は一人の命ではない、多くの命とのかわり、「縁起」の中で生きていることを常に忘れず、お互いの命を尊ぶことを忘れぬよう、言葉に出して言うことをお示し

くださったのです。そんな深い意味が、食前食後の言葉には、こめられていたのです。

私たちは、いつも生活の中で常識にしたがつて生きています。しかし、あたりまえと思つていることが、実は自分のあてにならぬ物差しではかった、自分中心のものの見方であることに気づくということは、重要な事であり、それが仏教の大きな目的の一つでもあります。なんでもない食前食後の言葉の意味を、もう一度、家族の食卓で味わつてみませんか。

【食前のことば】
みほとけとみなさまのおかげによりこのごちそうを恵まれました。
○ふかくご恩を喜び、ありがたくいただきます。

食事の言葉

【食後のことば】

尊いおめぐみにより、おいしくいただきました。
○おかげで、ごちそうさまでした。



家族での食事

あーちゃん

「お母さん、早く死なさい」
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい



お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい

お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい



お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい
お母さん、早く死なさい

ビハーラ大分公開講座 10周年記念講演会



Dr.Alfons Deeken / アルフONS・デーケン
1932年ドイツ生まれ
'59年 来日
'91年 全米死生学財団賞及び第39回菊池寛賞受賞
現在 上智大学名誉教授
東京・生と死を考える会名誉会長
生と死を考える会全国協議会名誉会長

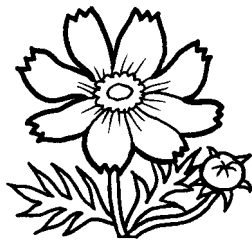
講題
“生きる指針を求めて
ーいやしとユーモアー”



宮崎 幸枝 / みやざき ゆきえ
茨城 宮崎ホスピタル医院・理事長
仏法の喜びを通して患者との出会いを大切にしておられる医師

講題
“いのちより大切なこと
～医療の現場より”

2007年1月20日(土) 13:30~16:00 大分文化会館
入場整理券 600円



問い合わせ先

大分教区教務所内ビハーラ大分
電話 0977-22-0146
mail:oitanamo@ctb.ne.jp

“ビハーラ大分”は仏教を通して、特に医療と福祉の現場で“よりそい”をテーマに活動しています。特に現在は宗教を背景とした“傾聴ボランティア”の養成と実践を行っています。

あとかぎ

吉田拓郎さんと再結成かぐや姫が三十一周年ぶりに、つま恋でコンサートを開いた。ちょうど彼岸の中日、NHKハイビジョンで生中継とのこと、録画予約をし、心は、つま恋でご法事にしかけた。二十一年前の拓郎さんの、つま恋オールナイトコンサートでは、いっしょに叫んだのにといいながら、テレビを見た。◆ハイビジョンというのは凄いな！アップになった時の拓郎さんの老け方を目の当たりにし、ふと鏡で見れば歳を重ねた私の姿があった。◆「ペニーレインでバーボン」がはじまった。カラオケで歌う時は歌詞を変えていた所を、拓郎さん自ら「蚊帳の外」と変更して歌っていた。これからはこう歌おう。◆いつからこの歌詞になったのか。NHKで生放送するからか。と、本質とは関係ない思いが浮かんだ。◆筒井康隆氏の『断筆宣言』のことを思い出す。自主規制・表現の自由等々で論議が白熱。その中で置き去りにされていた、てんかんなを持つ人の痛みを、まわりのてんかんに対する誤解・偏見を◆今回もまたしばらく、あの場所になかった自分を後悔しそうです。